

第1 環境への配慮のための措置及びその取組状況の評価

取組状況					取組状況の評価						
分野	区分	細区分	概要	詳細（容量、仕様、規模等）	段階	適合状況	配点	評価			
								評点	最高点		
エネルギーの 使用の 合理化	I 建築物の熱 負荷の低減	外壁・屋根の断熱 窓部の熱負荷の低減	① 外壁及び屋根の断熱に係る事項 外壁〔 〕 屋根〔 〕	(1) 外壁の断熱の仕様 断熱材〔 〕厚さ〔 mm〕熱抵抗値〔 $m^2 \cdot K/W$ 〕 (2) 屋根の断熱の仕様 断熱材〔 〕厚さ〔 mm〕熱抵抗値〔 $m^2 \cdot K/W$ 〕 (3) 床(外気に接する部分)の断熱の仕様 断熱材〔 〕厚さ〔 mm〕 熱抵抗値〔 $m^2 \cdot K/W$ 〕	1		0		2		
			② 窓部の日射遮へい及び断熱に係る事項(例 <sup>ひさし</sup> 庇、ルーバー、ペアガラス等の設置) 〔 〕 〔 〕	(4) 床(その他の部分)の断熱の仕様 断熱材〔 〕厚さ〔 mm〕 熱抵抗値〔 $m^2 \cdot K/W$ 〕							
			③ その他の事項 〔 〕 〔 〕	(5) 土間床等の外周部(外気に接する部分)の断熱の仕様 断熱材〔 〕厚さ〔 mm〕 熱抵抗値〔 $m^2 \cdot K/W$ 〕 (6) 土間床等の外周部(その他の部分)の断熱の仕様 断熱材〔 〕厚さ〔 mm〕 熱抵抗値〔 $m^2 \cdot K/W$ 〕 (7) 開口部の建具の断熱の仕様 建具形態〔 〕材質〔 〕構造〔 〕ガラスの種類〔 〕 建具形態〔 〕材質〔 〕構造〔 〕ガラスの種類〔 〕 (8) 外皮平均熱貫流率◎〔 $W/m^2 \cdot K$ 〕 (9) 冷房期の平均日射熱取得率◎〔 〕 (10) 各部位の熱貫流率 外壁◎〔 $W/m^2 \cdot K$ 〕屋根◎〔 $W/m^2 \cdot K$ 〕 床(外気に接する部分)◎〔 $W/m^2 \cdot K$ 〕床(その他の部分)◎〔 $W/m^2 \cdot K$ 〕 土間床等の外周部(外気に接する部分)◎〔 $W/m^2 \cdot K$ 〕 土間床等の外周部(その他の部分)◎〔 $W/m^2 \cdot K$ 〕 (11) 開口部の熱貫流率◎〔 $W/m^2 \cdot K$ 〕 (12) 窓の夏期日射侵入率◎〔 〕 (参考) 評価基準を適用した住戸(方位、階数)〔 〕〔 〕〔 〕 (参考) エネルギーの使用の合理化に関する性能の目標 建築物の熱負荷の低減について段階 〔 〕							
① 太陽エネルギーを利用したシステムに係る事項(例 窓の配置計画、窓面積比、ボイドスペース、トップライト、ハイサイドライト) 〔 〕	② 風を利用したシステムに係る事項(例 2方向以上への開口) 〔 〕	③ その他の事項(例 パッシブソーラーシステム、地中熱を利用したシステム) 〔 〕	2		1	1					
① 太陽光発電設備に係る事項 利用の有無〔有・無〕 利用形態〔 〕	② 太陽熱を利用したシステムに係る事項 利用の有無〔有・無〕 利用形態〔 〕	③ 地中熱を利用したシステムに係る事項 利用の有無〔有・無〕 利用形態〔 〕						2		1	2
④ バイオマスを熱源とする熱を利用したシステムに係る事項 利用の有無〔有・無〕 利用形態〔 〕	⑤ その他の事項〔 〕	⑥ 年間再生可能エネルギー利用量〔 MJ/年〕									
① 給湯システムの仕様 利用の有無〔有・無〕 〔 〕	② 床暖房システムの仕様 利用の有無〔有・無〕 〔 〕	③ 空調システム(ビルトイン空調機)の仕様 利用の有無〔有・無〕 〔 〕	1		0						
① 給湯システムの仕様 利用の有無〔有・無〕 〔 〕	② 床暖房システムの仕様 利用の有無〔有・無〕 〔 〕	③ 空調システム(ビルトイン空調機)の仕様 利用の有無〔有・無〕 〔 〕					2		1	2	

		④ 暖房機能付き給湯システムの仕様 利用の有無〔有・無〕 〔 〕	暖房機能付き給湯システムの点数〔 点〕	3		2		
		⑤ 合計点〔 点〕						
IV エコマテリアル	再生骨材等利用	① 再生骨材等を利用したコンクリート等の使用の有無〔有・無〕 ② ①の利用部位(例 捨てコンクリート、工作物に用いられる現場打ちコンクリート又はコンクリート製品) 〔 〕 ③ 再生骨材等の種類〔再生骨材・その他( )〕		2		1		1
	混合セメント等利用	① 混合セメント等の利用の有無〔有・無〕 ② ①の種別〔高炉B種・高炉C種・フライアッシュB種・フライアッシュC種・その他( )〕 ③ ①の利用部位〔 〕		2		1		1
	リサイクル鋼材利用	① リサイクル鋼材の利用の有無〔有・無〕 ② ①の構造用材料への利用の程度〔大半の部位に利用・特定の部位に利用〕 ③ ①の利用部位〔 〕		2		1		( )
	エコマテリアル利用 (再生骨材等利用、混合セメント等利用及びリサイクル鋼材利用を除く。)	〔 〕 〔 〕 〔 〕 〔 〕 〔 〕		/				
V オゾン層の保護及び地球温暖化の抑制	断熱材用発泡剤	① 主として使用する断熱材の種類(例 硬質ウレタンフォーム、フェノールフォーム)〔 〕 ② ①の利用部位〔 〕 ③ ①のうち、発泡剤を利用している断熱材の有無〔有・無〕		2		1		2
		④ 発泡剤の種類〔 〕 (1) オゾン層破壊係数〔 〕 (2) 地球温暖化係数〔 〕		3		2		
	空気調和設備用冷媒	〔 〕 〔 〕		/				
資源の適正利用	維持管理、更新、改修、用途の変更等の自由度の確保	① 維持管理の容易性に係る事項 専用配管の維持管理に係る事項(例 躯体への影響に対する配慮、清掃口又は点検口の設置) 〔 〕 共用配管の維持管理に係る事項(例 躯体への影響及び作業の容易性の確保に対する配慮) 〔 〕		2		1		2
		② 更新、改修、用途の変更等への対応に係る事項(例 階高、 <sup>はり</sup> 梁下の高さ、壁及び柱の位置) 〔 〕 〔 〕		3		2		
VI 長寿命化等	躯体の劣化対策	I 鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造の場合 ① 水セメント比に係る事項〔 %以下〕 ② かぶり厚さに係る事項〔 〕 ③ 躯体の保護に係る事項(例 モルタル塗り、タイル貼り) 〔 〕 〔 〕		2		1		1
		II 鉄骨造の場合 ① 鉄骨の鋼材の厚さに係る事項〔 mm〕 ② 鉄骨の防錆 <sup>せい</sup> の措置に係る事項 最下階(地階を除く。)の柱脚部の防錆措置に係る事項 〔 〕 一般部(最下階(地階を除く。))の柱脚部以外 <sup>せい</sup> の防錆措置に係る事項 〔 〕		2		1		1
		III I及びII以外の構造の場合 ① 躯体の耐久性の向上に係る事項 〔 〕		/				

	VII 水循環	雑用水利用	① 雑用水の利用の有無〔有・無〕 ② 雑用水の利用方式〔個別循環・地区循環・広域循環・工業用水利用・雨水利用〕 ③ 広域循環方式による再生水の供給区域の内外〔内・外〕供給エリア名〔 〕 ④ 原水種別(個別循環方式、地区循環方式又は雨水利用方式の場合) 〔洗面所及び給湯室排水・冷却水・厨房排水・プール排水・雨水・その他( )〕 ⑤ 利用先〔便所洗浄水・散水用水・修景用水・その他( )〕	(個別循環方式、地区循環方式又は雨水利用方式の場合) (1) 処理方式〔 〕 (2) 計画水量〔 m <sup>3</sup> /日〕  (雨水利用の場合のみ) (3) 貯留槽(沈砂槽を含む。)容量〔 m <sup>3</sup> 〕(4) 集水面積〔 m <sup>2</sup> 〕	2		1		1
	VIII 水循環	雨水浸透	① 敷地の状況(例 地形、地質、地下水位) 〔 〕 ② 雨水浸透の方法(雨水浸透ます・雨水浸透トレンチ・透水性舗装・地表面の緑地化・その他) 〔 〕	(1) 雨水浸透量〔 m <sup>3</sup> 〕 (2) 雨水浸透の能力〔 mm/時〕	2		1		( )
自然環境の保全	VIII 緑化	緑の量の確保	① 地上部における樹木の植栽等に係る事項 〔 〕	(1) 地上部の樹木の植栽等のなされた部分の面積(A)〔 m <sup>2</sup> 〕 (2) 建築物上の樹木、芝、草花等の植栽のなされた部分の面積(B)〔 m <sup>2</sup> 〕	2		1		2
			② 建築物上における樹木、芝、草花等の植栽に係る事項 〔 〕	(3) 総緑化面積(A+B)〔 m <sup>2</sup> 〕 (4) 敷地面積(C)〔 m <sup>2</sup> 〕 (5) 総緑化面積の敷地面積に対する割合((A+B)/C)〔 %〕	3		2		
	VIII 緑化	緑の質の確保	① 建築物上における樹木の量の確保に係る事項 〔 〕	(1) 建築物上の樹木の植栽のなされた部分の面積(D)〔 m <sup>2</sup> 〕 (2) 点数〔 点〕 (3) 建築物上の緑化面積(E)〔 m <sup>2</sup> 〕 (4) 建築物上の樹木の植栽のなされた部分の面積の建築物上の緑化面積に対する割合(D/E)〔 %〕	2		1		2
			② 高木の植栽に係る事項 〔 〕	(1) 高木の植栽のなされた部分の緑化面積(F)〔 m <sup>2</sup> 〕 (2) 点数〔 点〕 (3) 高木の植栽のなされた部分の面積の総緑化面積に対する割合(F/(A+B))〔 %〕 (4) 5mを超える高木の植栽の有無〔有・無〕	3		2		
			③ 既存の樹木の保全に係る事項 〔 〕	(1) 既存の樹木の植栽のなされた部分の面積〔 m <sup>2</sup> 〕 (2) 点数〔 点〕 (3) 幹周り1m以上の大径木の保存の有無〔有・無〕					
			④ 合計点〔 点〕						
			動植物の生息・生育環境への配慮 〔 〕						
		連続した緑の形成 〔 〕							
		樹木・芝・草花等の維持管理への配慮 〔 〕							
ヒートアイランド現象の緩和	IX ヒートアイランド現象の緩和	敷地と建築物の被覆対策	敷地と建築物の被覆の改善に係る事項 〔 〕 〔 〕	(1) 緑地による対策評価面積(G)〔 m <sup>2</sup> 〕 (2) 水面による対策評価面積(H)〔 m <sup>2</sup> 〕 (3) 保水性被覆材による対策評価面積(I)〔 m <sup>2</sup> 〕 (4) 高反射率被覆材による対策評価面積(J)〔 m <sup>2</sup> 〕 (5) 総対策評価面積(G+H+I+J)〔 m <sup>2</sup> 〕 (6) 敷地面積(C)〔 m <sup>2</sup> 〕 (7) 総対策評価面積の敷地面積に対する割合((G+H+I+J)/C)〔 %〕	2		1		2
		風環境への配慮	望ましい風環境の確保を図るために行う建築物の形状及び配置に係る事項 〔 〕 〔 〕	(1) 見付幅(K)〔 m〕 (2) 夏の主風向に直交する最大敷地幅(L)〔 m〕 (3) 見付幅比(K/L)〔 〕 (4) 夏の主風向に直交する最大空地幅(M)〔 m〕 (5) 最大高さ(N)〔 m〕 (6) 最大空地幅比(M/N)〔 〕	2		1		

備考1 取組状況の欄中「〔 〕」には該当する事項に○印又は必須事項を記載すること。

2 詳細(容量、仕様、規模等)の欄中◎印の欄には、該当する数値について算出している場合に記載すること。

3 取組状況の評価の欄中適合状況の欄には、評価基準に適合している場合に、○印を記載するとともに、評点の欄には、細区分ごとの配点の合計を記載すること。また、当該基準の適用がない場合は適合状況の欄に「適用がない」と記載し、別表第3に掲げる細区分について当該基準による評価を行わない場合は「評価を行わない」と記載すること。

4 最高点の欄中「( )」には、当該特定建築物で想定される最高点を記載すること。

第2 環境への配慮のための措置の概要

--

第3 棒グラフによる環境配慮の措置の評価

評点 グラフ表示 最高点

I 建築物の熱負荷の低減	外壁・屋根の断熱 窓部の熱負荷の低減	( )点	( )点
II 再生可能エネルギーの利用	再生可能エネルギーの直接利用	( )点	( )点
	再生可能エネルギーの変換利用	( )点	( )点
III 省エネルギーシステム	設備システムの省エネルギー	( )点	( )点
IV エコマテリアル	再生骨材等利用	( )点	( )点
	混合セメント等利用	( )点	( )点
	リサイクル鋼材利用	( )点	( )点

	V オゾン層の保護及び地球温暖化の抑制	断熱材用発泡剤	( )点	( )点
	VI 長寿命化等	維持管理、更新、改修、用途の変更等の自由度の確保	( )点	( )点
		躯体の劣化対策	( )点	( )点
	VII 水循環	雑用水利用	( )点	( )点
		雨水浸透	( )点	( )点
	VIII 緑化	緑の量の確保	( )点	( )点
		緑の質の確保	( )点	( )点
	IX ヒートアイランド現象の緩和	敷地と建築物の被覆対策	( )点	( )点
		風環境への配慮	( )点	( )点

備考 設計上の基本方針、維持管理計画、設計及び維持管理計画上の制約等、特に配慮した事項を記載すること。

	V オゾン層の保護及び地球温暖化の抑制	断熱材用発泡剤	( )点	( )点
	VI 長寿命化等	維持管理、更新、改修、用途の変更等の自由度の確保	( )点	( )点
		躯体の劣化対策	( )点	( )点
	VII 水循環	雑用水利用	( )点	( )点
		雨水浸透	( )点	( )点
	VIII 緑化	緑の量の確保	( )点	( )点
		緑の質の確保	( )点	( )点
	IX ヒートアイランド現象の緩和	敷地と建築物の被覆対策	( )点	( )点
		風環境への配慮	( )点	( )点

備考 「評点」及び「最高点」の部分には、それぞれ、第1の「区分」の欄中 I から IX までごとの「評価」の欄に掲げる評点及び最高点を表示し、当該最高点に対する当該評点の割合に応じて、「グラフ表示」の部分に棒グラフを表示すること。ただし、当該基準の適用がない場合は「適用なし」と表示し、0点の場合は棒グラフを表示しないこと。